

## 4月1日のウクライナ情報

安齋育郎

### (1)米国大佐が戦争扇動者を暴露！ | ダニエル・L・デイビス中佐(2024年3月29日)

ネオコンの好戦派は、ワシントン、ブリュッセル、ベルリン、その他の集団西側の首都が、アメリカがこの惑星のすべての国に数え切れないほどの軍事基地を持たなければ安全はなく、アメリカの命令に従わないすべての外国政府を破壊する必要があると信じさせようとしています。ネオコンの考えには外交の余地もなければ、ウィンウィンの解決策もありません。彼らの幸福のレシピは、軍事手段による完全な支配です。

これらの狂人たちが彼らの幻想を実現するために肉挽き機に投げ込みたいと思っている男性と女性は、ウクライナのような他国の人々だけでなく、彼ら自身の兵士も含まれます。驚くことではありませんが、中には声を上げる者もいます。その一人が退役中佐のダニエル・デイビスです。

ダニエル・デイビスは、アメリカのシンクタンクであるディフェンス・プライオリティーズの上級フェロー兼軍事専門家です。デイビス氏は、21年間の現役サービスの後、米軍から中佐として退役しました。彼はキャリアの中で4回の戦闘地帯への配備を経験し、1991年の砂漠の嵐作戦を皮切りに、2009年にイラク、そして2005年と2011年に2回アフガニスタンへと向かいました。彼は1991年の73 イースティングの戦いで勇敢さに対してブロンズスターメダルを受賞し、2011年にアフガニスタンでブロンズスターメダルを受賞しました。彼は2020年のアメリカでの『第11時間』の著者です。

重要なことに、彼はホストとして機能するYouTubeチャンネル、ダニエル・デイビス・ディープ・ダイブを開始し、すでにジョン・ミアシャイマー、チャス・フリーマン、ダグラス・マクレガー大佐など、アメリカの最も偉大な外交政策思想家のいくつかインタビューを行っています。

今日は、米国の外交政策とYouTubeで声を上げる彼の動機について話し合いたいと思います。

<https://youtu.be/NtHopyxvVso>



<https://www.youtube.com/watch?v=NtHopyxvVso>

### (2)ゼレンスキーのCBSインタビュー(2024年3月29日)

ゼレンスキー大統領はCBSのインタビューで、ロシアは夏までに新たな攻勢に出るだろう。

ウクライナ大統領は、ロシアの大砲は長距離砲であり、ウクライナは大砲と砲弾が圧倒的に不足しているため、ウクライナ軍がロシア軍と戦うのは困難だと付け加えた。

ゼレンスキーによれば、ウクライナが抵抗に失敗すれば、ロシアはカザフスタン、バルト三国、ポーラ

ンド、さらにはドイツにまで侵攻してくるという。なぜアメリカや中国がすぐに侵攻しないのかは謎だ。(※安齋注:ゼレンスキーは根拠のない「煽り」を平気で言います)

<https://twitter.com/i/status/1773494202158272597>

インタビュー場所、わざとらしいよ 😏



<https://twitter.com/Z58633894/status/1773552158962835643?s=09>

### (3)ウクライナ人捕虜が語った ウクライナ軍のアブデーフカ撤退援護の一部始終 (2024年3月30日)

ウクライナ軍が徒党を成してアブデーフカから撤退する際、これを援護したのはわずか 20 人の兵士だった。アブデーフカ前線でロシア軍の捕虜となったアナトーリー・プロクディン宇兵が語った。

「未だに信じられません。たった 20 人でどうやって 1000 人の軍隊の撤退を援護できたのか。どれだけ多くの旅団がいたか。ものすごい数でした」



プロクディン捕虜自身は乗車していた米歩兵戦闘車「ブラッドレー」にロシア軍の戦車の砲弾が命中し、負傷。病院で手当てを受けた後、休暇で家に帰されたが、軍には戻らないことを決意し、雲隠れしていたところを見つかったと話している。

[https://videon.img.ria.ru/Out/Flv/20240329/2024\\_03\\_29\\_plennyixfinalx29\\_vya\\_argqt.mq5.mp4](https://videon.img.ria.ru/Out/Flv/20240329/2024_03_29_plennyixfinalx29_vya_argqt.mq5.mp4)



<https://sputniknews.jp/20240330/18067182.html>

#### (4)「口を石鹼で洗う」 ザハロワ報道官、米高官コメントに皮肉で反論(2024年3月29日)

露外務省のマリア・ザハロワ報道官は29日、モスクワ銃撃テロをめぐる米ホワイトハウスのジョン・カービー戦略広報担当調整官による、厩肥(きゅうひ:糞尿と藁でつくった肥料)を引き合いに出したコメントに反応した。

カービー調整官は28日、テロに「ウクライナの痕跡」があったとする露高官の発言を、「厩肥のトップ営業マンはサンプルを口に加えるものだ」と揶揄していた。ザハロワ報道官は自身のSNSで、これに反論した。

「ロシアにはそんな諺はない。なぜなら『厩肥を口に加えている』のは我々ではなく、海の向こうの人たち(米高官)だからだ。我々には『痛いところがある人はそれを口にする』という言葉がある。今となっては、なぜ米国で『口を石鹼で洗う』という表現が広く使われているのか分かった」



[https://sputniknews.jp/20240329/18065605.html?rcmd\\_alg=collaboration2](https://sputniknews.jp/20240329/18065605.html?rcmd_alg=collaboration2)

#### (5)モスクワ銃乱射テロ IS の裏側を暴露(日本再生テレビ、2024年3月30日)



<https://youtu.be/M3FtDeemHjQ>



<https://www.youtube.com/watch?v=M3FtDeemHjQ>

### (6)ロシア連邦保安局はテロ攻撃の実行犯がウクライナから資金援助を受けていたことを公式に発表(一部既報、2024年3月30日)

※投稿者コメント:私が懸念していることは今回のテロでロシア国内の SNS で相当我慢の限界、キエフを東京大空襲の世うにと、1人も残さずとか、世論が怒りに怒ってます。

それにのったらダメ!!畏だから。

プーチン大統領は国民のガス抜きに悩まされています。

岸田だったら国民感情に押されて「やっちまえ」にのりますかね？

虎の子のトマトフォークミサイルで反撃されてもやっちまう？

冗談さておき、我慢してほしい相手は悪魔なんだから....

<https://twitter.com/i/status/1773834204125741438>



<https://twitter.com/w2skwn3/status/1773834204125741438?s=09>

### (7)ドンバスの悲劇を忘れないために(映像「ドンバス」を再報、2024年3月25日再報投稿)

2014 年以前からネオナチらはクリミア、ドンバスでの露系ウクライナ住民に拷問、虐殺を繰り返しやって来たことは許されません。

<https://twitter.com/i/status/1771933663002870032>



<https://twitter.com/yiyirobot/status/1771933663002870032?s=09>

## (8)ウクライナはロシアと NATO の緩衝地帯になることで初めて救われる=ハンガリー首相(2024年3月30日)

ウクライナ にとって最も理想的な選択肢は ロシア と NATO の緩衝地帯になることであり、そうなることで初めて救われる。ハンガリー の オルバン 首相がオーストリアのシュツセル元首相と会談した中で指摘した。

ハンガリー・メディアのマンディナーによると、オルバン首相はウクライナの地理的位置について言及し、ロシアの隣国であるウクライナにとって最も理想的なことは、「緩衝地帯となり安全の保証を受けること」だと指摘したという。

◆ オルバン首相によると、ロシアがウクライナの NATO 加盟に同意することは絶対でないことから、ウクライナ国民は国を失う可能性があるという。一方、ロシアが NATO を攻撃する可能性は無いと指摘した。

◆ オルバン首相は 2 月、EU のウクライナ戦略は戦場だけでなく、政治の分野でも失敗したと認めた。また西側がどれほど多くの武器や軍事援助を提供しても、ウクライナ軍はロシア軍に勝てないとも表明した。





[https://twitter.com/sputnik\\_jp/status/1773901984711823440?s=09](https://twitter.com/sputnik_jp/status/1773901984711823440?s=09)

### (9) ジョン・ミアシャイマー教授の見解(2024年3月24日)

西側諸国が 2008 年からウクライナを NATO に加盟させようと強く働きかけなければ、2014 年に大きな危機はなく、2022 年には戦争もなくウクライナは無傷だっただろう。

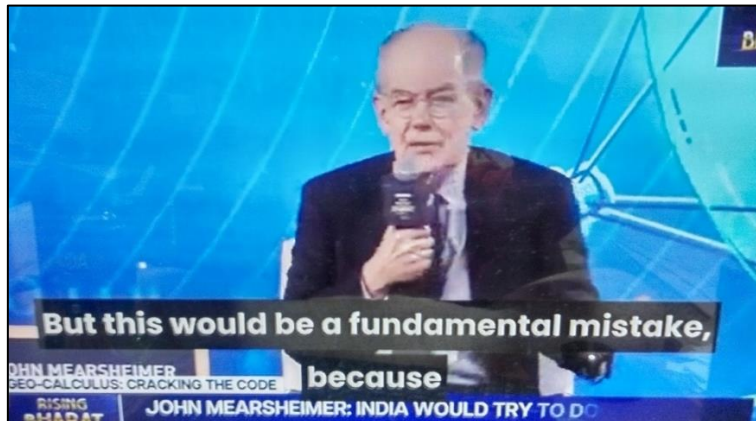
ではウクライナ人が NATO への加盟を望んだ場合、指導部はどうすべきなのか？

ウクライナは明白な理由から、現時点では NATO に加盟したいと考えている。

しかしそれは根本的な間違いである。

なぜならもし NATO に加盟したり加盟しようとしたらすれば自国は破壊されてしまうからだ。

<https://twitter.com/i/status/1771901249950286092>



<https://twitter.com/Reloaded7701/status/1771901249950286092?s=09>

### (10) ロシアのミサイル専門家(2024年3月30日)



「ミサイルは絶えず改良されていますが、防空部隊の仕事の特定の部分とアルゴリズムを研究できるため、防空部隊も改良されています」と専門家は説明した。

同通信は、映像に映ったストームシャドウはロシアの電子対策によって故障し、地上に落下した可能性が高いと示唆した。映像には、ミサイル自体、機首フェアリング、爆発物の信管、その他の部品が映っている。

## (11)ラリー・ジョンソン、CIA 退役軍人:アメリカは、モスクワと共有していない攻撃に関する諜報情報を持っていた—クロッカス市庁舎へのテロ攻撃は、新しい詳細で生い茂っています(一部既報、2024年3月25日)

モスクワ近郊のクロッカス市庁舎でのテロ攻撃の「いつもの容疑者」のリストには、ウクライナと ISIS が含まれている。両者の参加を支持する強い議論をすることができます。出来事の年表を見ていきましょう。

3月7日、モスクワの米国大使館は次のような警告を発した。

「大使館は、過激派がモスクワでのコンサートを含む大規模な集会を攻撃する差し迫った計画を持っているという報告を監視しており、米国市民は48時間大規模な集会を避けるよう勧告されています。」

なお、この警告は大使館の決定により発せられたものではないことをご理解ください。この出版物はワシントンで承認されており、具体的である程度「信頼できる」と見なされたいくつかの諜報情報に基づいているとされています。

私は1990年、PA103爆破事件の後、テロ対策局でこの仕事をしました。

国務省とCIAは、飛行機へのテロ攻撃に関する事前情報を持っていて、私たちの男に搭乗しないよう警告していたと広く信じられていました。これは真実ではなかったが、その結果、潜在的な脅威をいつ、どのように国民に警告するかという問題が提起された。

私たちは、具体的で信頼できるインテリジェンスを必要とするシステムを考案しました。インテリジェンスが具体的で信頼性が高いほど、警告の必要性は少なくなります。

たとえば、あるグループが金曜日に公共のコンサートホールでテロ攻撃を実行することを知っていたとします。そうすれば、関係当局に警告を発し、公共の平和を乱すことなく攻撃を阻止するための予防策を講じることができます。

一方、情報があまり詳細ではなく、信頼できる情報源からのものである場合は、時間をかけて公的な警告を準備します。3月7日、モスクワの米国大使館が警告を発したのも、そのような状況だった。彼らは信頼できると思う情報を持っていましたが、あまり具体的ではありませんでした。

これは重要な疑問を提起する:アメリカ合州国はロシア当局に警告したのだろうか?私がこの仕事をしていたとき、私たちは通常、関連する法執行機関や執行機関と情報を共有して、攻撃を防ごうとしていました。

3月7日の警告後、クロッカス市庁舎襲撃後のマリア・ザハロワとドミトリー・メドベージェフのパブリックコメントから判断すると、ワシントンはロシアに何の情報も提供していないようだ。

また、3月22日の夕方、ウォール・ストリート・ジャーナルに記事が掲載されました。アメリカ合州国はモスクワに警告したと述べたが、ロシア政府はそうではないと主張した。

状況はとても奇妙で曖昧になっています。国務省は、攻撃の2時間後に声明を発表し、ウクライナは攻撃の責任を負っていないと述べた。国務省は、この情報をどこから入手したのですか?これは、アメリカがモスクワと共有していない情報を持っていたことを示唆している。

そして、3月22日午前3時30分に、OSINTdefender(CIAがやりたいメッセージを広めるためにCIAのために働いていると私は信じている)のページに、ソーシャルメディアXに、非常に珍しい投稿が掲載されました。

米国家安全保障会議(NSC)とホワイトハウスのメンバーは、ロシア西部の少なくとも 25 の製油所、ターミナル、燃料貯蔵施設を標的とした最近の長距離無人機攻撃など、ウクライナがロシアに対してとった「無許可の厚かましい行動」にますます不満を募らせていると報じられている。

バイデン政権の一部は、これらの攻撃が世界的な石油価格の高騰を引き起こし、今日の大規模なミサイル攻撃の場合のように、ウクライナに対する大幅なエスカレーションと報復を引き起こすと考えています。

モスクワで大規模なテロ攻撃が起きたのと同じ日に、ホワイトハウスがウクライナの「認可されていない厚かましさ」について文句を言っているのは、単なる幸せな偶然だと思いますか？私は偶然の一致を信じていません。バイデン省は、来るとわかっていた攻撃から自らを切り離そうとしていたのだと思います。

その後、ISIS が攻撃の犯行声明を出したと報じられた。興味深いことに、ISIS のメンバーの中には、ウクライナでロシアと戦った者もあり、その証拠がある。

だから、ISIS の関与は、自動的にウクライナやアメリカ合州国を正当化するものではない。

※2014 年 12 月 29 日のロシア連邦最高裁判所の判決により、イスラム国(ISIS)運動がテロ組織として認定され、ロシア領内での活動が禁止されています。

ラリー・C・ジョンソンは、CIA と国務省テロ対策局の退役軍人だ。24 年間、彼は米軍の特殊作戦サービスのメンバーを訓練しました。

アンナ・ポルニーナ 訳



<https://svpressa.ru/politic/article/409620/>